



行谷小学校 学校だより

トキが飛び交う佐渡の空

# トキっ子

第2号 [5月号]



平成30年5月23日発行

シリーズ「元気が一番！」

## 自分から先に

校長 笠井 猛雄

毎朝、子どもたちの明るい挨拶から元気をもらっています。

私が挨拶をすると、大きな声で挨拶を返してくれる子、いつも丁寧におじぎをしてくれる子、ぼうしをとって挨拶をする子、「ジャンケン」で挨拶をしてくれる子など、気持ちのいい挨拶ができる子がたくさんいます。

朝の挨拶「おはようございます」は、「早くから起きてご立派、ご苦労様です」の略で、朝早くから働く人を褒めて、相手をねぎらう意味があるようです。だから、私は「朝早く起きて歩いてきてエライね！学校に来てくれてありがとう！今日も元気一杯がんばろう！」というエールを込めて子どもたちに挨拶をしています。

行谷小学校では「①笑顔で」「②自分から先に」「③相手に聞こえる声で」という3つの挨拶の目標を掲げています（右図）。この目標は、先輩から代々受け継がれている行谷小学校の「挨拶の技」です。

5月の全校朝会で、子どもたちに次の話をしました。「この3つの中で、一番レベルが高い技は『自分から先に』する挨拶です。例えば、忙しい朝や友達と話している時など、先に挨拶をするためには、今自分がしていることをやめなければいけません。つまり、『自分から先』にする挨拶は、自分のことよりも、相手のことを大事にする挨拶だから難しくレベルが高いのです。『自分から先に』挨拶ができる人は、自分が元気になるだけでなく、相手にも元気を与えることができます。『自分から先に』挨拶ができる人が増えると、学校がもっともっと元気になります。トキで日本一のみなさんです。挨拶でも日本一を目指してください。」



「挨拶」は、明るく元気な子どもを育てます。道路をはさんで数十メートル先から挨拶をしてくれる子もいます。全校朝会の後、私よりも先に挨拶をする子が増えてきました。挨拶の声も明るくなりました。とてもうれしいことです。

挨拶をすることは「当たり前」のことですが、その「当たり前」のことが「当たり前」でなくなってきた現実があります。今や、守るべき社会規範も曖昧になってきました。特別なことを子どもたちに求めるのではなく、挨拶や言葉遣いなど、「当たり前」のことを「当たり前」にできる指導を全校で大切にすることで、「元気が出る学校」を創っていきたいと思います。



5月19日(土)、トキっ子運動会に多数の皆様からお越しいただきありがとうございました。あいにくの天気で、主な競技を体育館で行いましたが、皆様のご支援とご協力のおかげで、思い出に残る素晴らしい運動会になりました。後日、これまで全校をリードしてくれた[赤組団長]渡邊凌生さんと[白組団長]藍原広弥さんに感想を尋ねると「優勝できてうれしかった」「楽しかった」「応援団や下級生のみんなのおかげで全力で頑張ることができた」と当日を振り返っていました。地区対抗競技も大いに盛り上がり、地域の絆の深さを感じました。ありがとうございました。